

目 次

①	はじめに	1
1.1	パラダイム	1
1.2	「利己的遺伝子」の興隆	3
1.3	日本の特殊事情	5
1.4	この本の狙い	8
②	アゲハ類の生活史	12
2.1	チョウの個体群動態の研究	12
2.2	卵・幼虫期の生命表	16
2.3	寄主植物との相互関係	23
2.4	成虫期の生存曲線と分散	26
2.5	蜜源植物の動態と分布	31
2.6	メタ個体群と景観	35
③	成虫の訪花行動の意義	38
3.1	エネルギー源としての花蜜	38
3.2	雌の蔵卵数	43
3.3	摂取糖量と雌の卵生産能力	47
3.4	雄の生殖器官	50
3.5	摂取糖量と雄の精包生産能力	53
④	新しい解釈の始まり	58
4.1	「繁殖成功率」の概念の深化	58
4.2	交尾前の行動	61
4.3	交尾中の振る舞い	65

4.4	交尾後の行動	67
⑤	雌の立場と多回交尾	69
5.1	生涯交尾回数	69
5.2	多回交尾と卵生産	74
5.3	モンキチョウに発現する雌の2型	79
5.4	キタキチョウの成虫越冬	83
5.5	単婚性のベニシジミ	86
5.6	雌にとっての望ましさ	89
⑥	交尾と産卵にかかわる雄の様々な戦略	93
6.1	雌に対抗する雄	93
6.2	行動的雄間競争	98
6.3	有核精子と無核精子	101
6.4	代理闘争	106
6.5	無核精子の役割についての様々な仮説	110
6.6	再び雌へ：将来	114
⑦	研究室の学生たち～あとがきにかえて～	118
7.1	学生気質	118
7.2	チョウの飼育	122
7.3	野外調査	124
7.4	謝辞	127
	引用文献	129
	交尾をめぐる雄と雌の駆け引き (コーディネーター 巖佐 庸)	132
	索引	139